

彫刻家

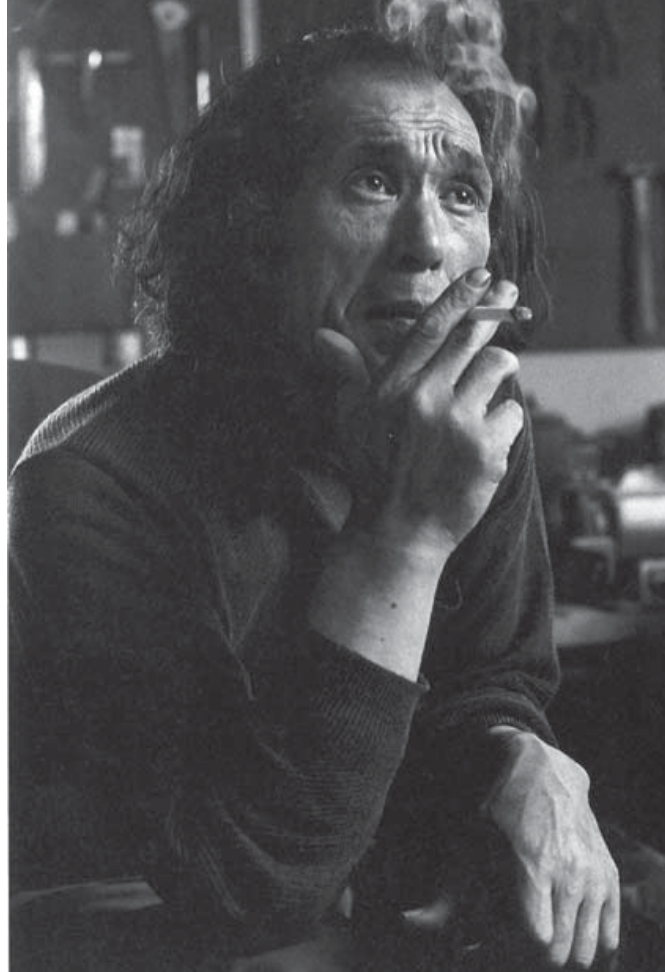
本田明二

Meiji Honda
1919 - 1989
月形町出身



スタルヒンよ永遠に (図1)

今年、本町は開町140年を迎え、記念式典を開催します。記念式典開催に併せて樺戸博物館では、月形町出身の彫刻家・本田明二の彫刻作品を展示します。今回は、月形町出身の本田明二について特集します。



彫刻家 本田明二とは

本田明二は1919(大正8)年に月形町(当時、月形村)で生まれ、両親は「本田百貨店」という雑貨屋を営んでいました。その後、現在の札幌市北区へ移り住みました。進学は札幌第二中学校(現在の札幌西高等学校)を卒業。大学進学を考えていましたが、教員から後の師匠となる東京の木彫刻家・澤田政廣への師事を進められ上京しました。

19歳のとき、徴兵検査で合格し、皇居を守る近衛兵となりました。一度除隊しアトリエで制作をしていましたが、招集され戦地へ。色丹島で終戦を迎えました。しかし、戦後シベリアに3年間も抑留され、1948(昭和23)年28歳のとき復員し、札幌に定住しました。

その後、彫刻だけでなく喫茶店やバーのディスプレイ、新聞広告、ポスター描きで生計を立て、さらに北海道ドレズメーカー学院のファッションショーの演出や文化祭のディスプレイも担当していました。

1952(昭和27)年32歳のときに自身初の個展を開き、その後、数々の展覧会に出品し、多くの作品を制作していきました。

23歳のとき第6回文部省美術展覧会に「兵士の像」を出展し初入選。また、作品の大きさや質が高く、日本を代表する美術家を輩出してきた新制作展に出品、1957(昭和32)年に新作家賞を受賞しました。

本田明二の作品は、記念碑などの制作依頼を多く受けたことから、北海道内の公共施設に数多くの作品が設置されています。代表的なのは、旭川市のスタルヒン球場に設置された「スタルヒンよ永遠に」です(図1)。その他にも真駒内五輪記念公園の五輪小橋に「栄光」、札幌市東区区民センター前庭に「手をつなぐ」、美幌町開基百年を記念して、美幌博物館前に「青空へ」、札幌芸術の森野外美術館に「道標・けものを背負う男」など北海道各地に設置されています。

また、札幌市南区にある札幌芸術の森の建設計画にも携わり、北海道外の彫刻美術館などを調査するなど北海道の芸術の発展に貢献しています。

1988(昭和63)年に体調を崩し、1989(平成元)年、急性肺炎のため69歳で逝去しました。



仔馬Ⅱ (図2)



杜の守り神 (図3)

作風について

本田明二の作風は、「素材で野性味あふれる」と評されています。作品で扱われたのは、馬やふくろうといった動物(図2・3)、「やん衆」(北海道の漁師)、冬の装いであるマント、先住狩猟民族を表す「けもの男」など北海道的なものが多いためとされています。

作品は、写実的なものから抽象的なものまで、そのスタイルはさまざまです。特に「けものを背負う男」シリーズは、写実的から抽象的へと作品スタイルが変化していった代表と言えます。この「けものと男」シリーズは、江戸時代後期、松前藩の家老であり画家の蠣崎波響が12人のアイヌ民族の功労者を描いた「夷酋列像」の「ノチクサ(訥室狐殺)」をモチーフにしたものです。当初、「けものと男」ではなく、「えものを背負うノチクサ」(図4)と具体的な作品タイトルでした。顔や衣服などが写実的に制作されました。変化した

点は、鹿を背負っていたノチクサが、徐々にノチクサは一般的な男性に、そしてえもの鹿は獣として変化し、シンプルな彫刻へと抽象化・単純化されていきました(図5)。

作品のタイトルは、どれもシンプルなタイトルが付けられています。作品名はあまり重要ではなく、名前から広がるイメージをできるだけ無くすこととされています。



えものを背負うノチクサ (図4)



けものを背負う男 (図5)

彫刻に親しむために

彫刻の楽しみ方

彫刻は見る角度によって表情が変わります。絵画は平面ですが、彫刻は立体、三次元なので空間の中だけで存在感が生まれます。また、屋外に展示されていれば、季節や天気によって雰囲気が変わります。本やインターネットなど写真で見ると、実際に現物を見るのでは印象がまったく異なります。写真で見ると、「意外と大きい、表面がよく彫られている、分厚い」など感じられます。

美術館などの文化施設では、彫刻に親しむオブジェづくりなどのワークショップが開催されていることがあります。鑑賞以外にも、実際に作品づくりを体験することも親しむ方法のひとつです。

彫刻における写実的と抽象的って?

フランスの「近代彫刻の父」と言われたロダンが作った「考える人」は写実的で有名な彫刻です。あまりにも精巧にできており、「本物の人をかたどったのでは」と言われました。

一方、近現代の彫刻は曲線的で抽象的なものが多く見受けられます。特に20世紀を代表するイギリスの彫刻家ヘンリー・ムーアは、カーブが特徴的で、抽象的な作品を制作し、野外に作品を展示することを好みました。



写真提供

本田明二ギャラリー(本田明二本人写真 図4・5)

参考文献
芸術の森美術館(1991)・『本田明二展図録』・財団法人札幌芸術の森(現・公益財団法人札幌市芸術文化財団)、札幌彫刻美術館友の会(2019)・大内和・会報「いずみ」No.67・橋本信夫



▲設置のようす、作者本人(左)

◀開町の祖月形潔之像(図6)

本田明二展

このたび、本田明二の長女である近藤泉さんから、本田明二ギャラリーや自宅に保管されている木彫、テラコッタなどの彫刻76点、レリーフ、版画、デッサンなど約240点の作品などが寄贈されました。その一部を次のとおり展示しますので、ぜひご覧ください。

開催日 11月7日(土) ~ 10日(火)
時間 9:30 ~ 16:30
場所 月形樺戸博物館農業研修館
入館料 無料
内容 本田明二ギャラリーなどから寄贈された作品を展示
問合せ先 教育委員会社会教育係
☎IP 53・3443

月形町との関わり

月形町には2体の像が設置されています。一つは1984年、月形町役場に開町の祖「月形潔像」(図6)、二つめは同年月形小学校に「風の中の母子像」(図7)が設置されています。



風の中の母子像(図7)